

論 文 内 容 要 旨

Condylar asymmetry in patients with mandibular asymmetry
assessed by cone-beam computed tomography

神奈川歯科大学 歯科矯正学分野

研究生 湯淺 賢一

(指 導：山口 徹太郎 教授)

論文内容要旨

本研究は、下顎の非対称性を有する患者の偏位側と非偏位側の下顎頭の大きさを比較することを目的とした。また、偏位側と非偏位側との下顎頭の大きさの差と、上下顎顎間関係における前後的ならびに垂直パターンとの関連について検討した。対象者は18歳以上の日本人、韓国人、エジプト人計47人である。矯正歯科治療の診断のためにコーンビームCT画像が撮影された。顔面の正中基準平面からのメントン (Me) のずれが4 mm以上を対象者とした。Meが存在する側を偏位側、反対側を非偏位側とした。計測項目は、condylar length (下顎頭長)、condylar width (下顎頭幅)、condylar height (下顎頭高さ) とした。偏位側と非偏位側とで比較した。結果として、condylar length (下顎頭長)、condylar height (下顎頭高さ) に統計的に有意な差が見られた (それぞれ $p < 0.05$ 、 $p < 0.000$)。この有意差の要因についても検討した。その結果、condylar length (下顎頭長) は、前後の骨格パターンに統計的に有意な差が見られ ($p < 0.05$)、class III と class II との間で統計的に有意な差が見られた ($p < 0.05$)。condylar height (下顎頭高さ) では、集団間において統計的に有意な差が観察され ($p < 0.05$)、日本人の集団と韓国人の集団の間に統計的に有意な差が見られた ($p < 0.05$)。下顎骨非対称の患者では、偏位側と非偏位側で下顎頭の大きさに違いがあり、この違いは、上下顎顎間関係における前後的パターンに関連していることが示唆された。